

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890100270		
法人名	株式会社華		
事業所名	グループホームウッドランド魚崎北町		
所在地	兵庫県神戸市東灘区魚崎北町2丁目3番4号		
自己評価作成日	平成29年7月26日	評価結果市町村受理日	平成30年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2-14
訪問調査日	平成30年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の思いや要望に向き合うことを心掛け、職員の視点ではなく、本人の視点で考え、どのような支援を行うことができるかを検討している。入居者と共に生活を営むようにしており、食事の配膳や片付け、掃除や洗濯等の家事を一緒に行うことで、入居者の出来ることを続けられるように支援している。又、日常的に買い物や散歩に出掛けることで外気との触れ合いが良い刺激となっている。開設以降、地域の中でのグループホームとしての役割や交流の仕方について模索を続けてきたが、徐々に地域に向けて、「グループホームとは?」「認知症(ケア)とは?」ということについて発信する機会を広げてきており、これらの役割から交流へと繋げていこうとする段階に入ってきているところである。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①理念・方針に基づく運営・入居者お一人おひとりが「主人公として生活すること」「『生きる』こと」「住み慣れた馴染みある地域の中で生活すること」(理念の骨子)を支援し、ご本人が望む暮らしとなるよう全職員がその達成に取り組んでいる。②自己決定による日常支援・入居者個々人が望む暮らしとなるよう、様々なプログラムを提供して自己決定による選択が行えるように図っている。毎日の散歩、買い物、玄関前花壇の水遣り、季節行事案内(初詣、花見:桜・菊、だんじり・祭り見学、盆踊り、ボランティア協力による各種レクリエーション等)。③地域とともに・地域の方々より情報をいただき、様々な催しに積極的に参加したり、地域の防災対策に係わったり、また、自治会にも加入し、地域の中の一員としての事業所運営が出来るように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人ひとりが主人公として『生きる』ことを支援することを理念として職員間で協力し、ケアの実践につなげている。	「住み慣れた地域の中で、主人公である入居者が望む暮らしとなる」ように、情報を共有しながら全職員が同じベクトルに向かって支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する神社への参詣や、近くのスーパーへの買い物、ふれあい喫茶への参加等で地域との交流を図っている。	散歩や買い物時等にお会いする地域にお住まいの方々との交流をはじめ、地域行事への積極的参加(ふれあい喫茶、盆踊り、だんじり・祭り、菊花展見学等)やボランティアの協力等、地域に根付いた暮らしが常態化している。	今後も、地域の方々の協力をいただきながら、地域における社会資源の一つとしての定着を目標に、事業所発信の積極的な活動を増やしていかれることに大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域のふれあい喫茶等を通じて色々なお話をさせていただく中で、認知症の方の理解・支援の方法を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催の運営推進会議にて、当施設の取り組みや現状についてを報告し、それに対するご意見や参加者の方々のアドバイスを参考に、今後に活かしているところである。	会議では、事業所からの一方通行での情報発信に終始するのではなく、「認知症ケアについて」、「地域防災訓練について」、「夜間入浴について」、「ボランティアの協力について」等、多様なテーマに亘り、意見交換を行い運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議にも参加をし、地域包括支援センターとの連携を密に取っている。それらの中で当施設の取り組みを伝え、協力関係を築くようにしている。	市・区の担当者とは連絡を密にし、区のGH連絡会(市の職員も出席)に参加し、情報の共有・課題の検討等を行っている。また、地域包括支援センターとは地域ケア会議への参加・介護リフレッシュ教室の開催で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修において、身体的拘束についての理解を深めていっているところである。日中は玄関の施錠は行っていない。	研修・勉強会を通じ、職員は「身体的拘束等の弊害」について十分理解しており、入居者を見守り・寄り添いながらご本人が望む日常となるよう支援している。日中地は玄関を解錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内の高齢者虐待防止についての研修を通じ、職員全員で虐待防止に向けて取り組んでいる。	研修・勉強会・事例検討(日々のケアの振り返り含む)を通じ、「不適切なケア」のレベルからの払拭に取り組んでいる。また、職員間コミュニケーションを大切に、チームケアの向上・チーム力が最大化するように取り組んでいる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、実際に成年後見制度を利用されている利用者がおられ、その制度や活用性についてを、管理者と職員間で話し合う機会がある。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方が1名おられる。職員は制度活用が認知症高齢者への支援の一方策として有用である事を理解しており、状況に応じて家族等へ情報を提供している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約等の際には、利用者や家族と十分な時間を取り説明を行い、理解・納得してもらえるようにしている。	入居後に不具合が生じないよう事業所見学、質疑応答等、不安感・疑問点が無い状態にして契約を締結している。契約時には関連書類を丁寧に説明し理解していただいている(重度化・終末期への対応方針含)。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	それぞれの利用者や家族の事情に合わせて、来訪時や電話及びメールにて意見や要望を伺い、それらを日々のケアや運営に生かすようにしている。	行事参加時、来訪時、電話・メール、意見箱等、様々な機会を通じて意見・要望を聴き取っている。いただいた意見等は直ちに検討し、フィードバックするとともに運営に活かしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員と顔を合わせる中での会話や、会議の際に様々な意見や提案を聞き、それらを運営に反映させている。	月例会議において、業務面についての振り返り・見直し等を検討し、改善点については即時対応している。管理者が個別面談(レビュー)する機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員からの要望を聞き、少しでも職員がやりがいを持てるような職場環境や条件面の整備に努めており、実際に給与水準を見直し向上させた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員の力量把握に努め、認知症介護実践者研修等の研修を受講できるように実際に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が東灘区グループホーム連絡会等の参加を通じて、同業者との交流、相互訪問等の機会を設けている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初から本人の要望やお話をしっかりと聞き、よりよい関係を築くための努力を行っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや入居前から、複数回の面談の機会を設け、もちろん入居後も要望やお話をしっかりと伺い、よりよい関係を築くための努力を行っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との面談の内容や、入居後の様子を踏まえ、必要な支援・サービスはどのようなものなのかを検討している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者との日々の関わりの中で、コミュニケーションを大切に、一緒になって何かをすることで、生活上の提案・決定を利用者の意向を聞いたうえでやっている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族との関わりを大切に、本人と家族との関係・時間を大事にしてもらうよう常に心がけている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族や知人の来訪や、手紙や電話を通じて、今までの生活感をできるだけ長く維持できるように心がけて、行っている。	家族との外出(食事、買い物、通院同行等)・外泊、友人・知人の訪問、家族の営んでいるお店に立ち寄り、電話・季節のお便り投函等、今迄の生活感ができるだけ長く継続するよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格や、他利用者との関係を職員は把握し、入居者同士が気分よく生活できるように努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからも、本人・家族からの相談等があった場合には、それらの支援ができるように努め、実際にも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から希望や意向を伺える方はそうしている。それが困難な場合は家族から情報を聞き、本人本位になるように検討している。	入居者お一人お一人との係わり(会話、言動把握、仕草・表情等)の中から、ご本人が望む日常となるよう、その思い・意向を汲み取っている。キャッチした情報は申送り・連絡ノート等で共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から、これまでの生活状況等について聞かせていただき、こちらでの生活に反映させられるように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の職員間での申し送り事項や、毎月開催の職員会議及びサービス担当者会議を活用して、職員同士で現状の把握に努めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直し時期やその他必要時にサービス担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の思い・意向、家族の要望(サービス担当者会議に出席)に職員・医療専門職の意見を踏まえ、ご本人の今に適合した介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンス・モニタリングによりプランの見直し等に繋げている。	今後も「本人本位」の視点を介護計画の基軸とし、ご本人の「思い・ニーズ」の把握に努められ、本人を含めた関係者(チームワーク)で、その達成を目指すことに期待をします。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の個別の記録を作成し、その情報を職員間で共有して、日々のケアや介護計画の見直しに生かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームや認知症ケアについての正しい理解を地域に向けて発信することで、地域に支援者を増やし、入居者が地域の中で様々な支援を受けることができることを目指している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい喫茶等を通じ、地域との様々な交流を深めていっている。今後も新たな地域資源の把握・活用に繋げていけるように行っているところである。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の連携を密にとっており、各利用者1回/2週間の訪問診療を行っている。また、24時間オンコール体制を取っている。	協力医(内科)による往診(月2回)及び急変時の対応(24Hオンコール体制)により健康管理を行っている。また、希望者は歯科の訪問診療(歯科衛生士による口腔ケア含)も受けている(月3回)。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職との協働はしていない。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の治療及び早期の退院に向け、入院先の相談員を密な連携をとるようにしている。また、かかりつけ医からも紹介状を書いてもらう等、スムーズな連携を心がけている。	入院中は入居者の不安感軽減のため、職員が面会に行き家族とも情報を共有している。病院とは早期退院を目標に連携し、退院時にはホームでの暮らしに不具合が生じないよう情報を入手して支援に活かしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合のこちらでの対応についての説明を行っている。その上でそういった段階が近づいてきた場合には、かかりつけ医も含めた話し合いの場を実際に持っている。	入居者に重度化・終末期の状況が生じた場合には、事業所で「できる事」「難しい事」を明確にし、ご本人にとって望ましいケアとなるよう関係者(本人・家族、医療専門職、事業所等)で相談・検討しながら取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変時の対応方法についての文書を各フロアーに置き、各職員が把握できるようにしている。また、職員間研修を通じて実践力を付けていくようにしていく。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	どんな災害が起きてどんな被害が出るか、なかなか想定出来ない中、施設として苦慮しているところである。地域との連携については、運営推進会議を通じて確認をしている。	定期(年2回)の通報・消防・避難訓練を実施している。有事には地域の協力が得られる体制が整っている。また、非常食・飲料水等も備蓄している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者を人生の先輩と考え、適切な接し方を各職員心がけている。	入居者個々人の現況及び自尊心・羞恥心に十分配慮しながら、今まで培ってこられた事柄(技能・趣味・習慣等)のうち、できる部分をご本人のタイミングで体现できる様、支援している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者との日々の関わりの中で、各利用者が思いや希望を表しやすいような関係になるよう、各職員は日々努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、色々なことを入居者の希望を聞きながら行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭をこまめに剃る、女性はお化粧をしたりと、その方々に合ったケアを心がけている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お味噌汁を職員と一緒に作ったり、食後のお皿拭きを一緒に行ったりしている。職員も利用者と一緒に場で食事を摂っている。	「食事」は職員と一緒に会話を楽しみながら取っており、洗い物等も一緒に行うこともある。行事食や手作りおやつも喜んでおられる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を、各利用者毎に分けて記録するようにしている。食間の水分補給も、本人の希望や好みを伺い、常に数種類用意して提供できるようにしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り毎食後に口腔ケアを行っている。3回／月に、歯科医師・歯科衛生士による訪問診療を受けてもらい、口腔内の環境・清潔保持に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の習慣やパターンを把握し、必要な介助は行いながら残存能力を生かしたケアを行っている。	入居者個々人の現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、ご本人に適合した方法(言葉かけのタイミングや同性介助等)により、トイレでの排泄が行えるように支援している。夜間帯はパット交換の方もおられる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す食物の摂取や、水分不足にならないように心がけている。医師とも密に連携しながら、指示により緩下剤も必要な分を服用してもらっている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に声かけをし、希望を伺っている。入浴できる時間を午前や午後だけと決めず、幅広い入浴時間を設けている。	週2回の入浴を基本に、ゆったりゆっくりとした入浴時間となるよう支援している(好みの洗髪料の使用、夕方の足浴、職員との会話等)。季節湯(ゆず湯等)も喜んでおられる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を妨げない範囲で、本人の希望に沿いながら日中の活動と休息をバランスよく取ってもらっている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの方がどのような薬を服用しているかを各職員は把握し、ケアにあたっている。また、薬剤師との連携を密にとり、薬に関しては随時相談している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体的で画一的なケアではなく、それぞれの方に合わせた楽しみの支援(歌やゲーム等のレクリエーション・外出等)を考えて行っている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や近隣への散歩等、随時支援を行っている。遠方等への場合は家族と連携し、応じられるように努めている。	日々の散歩や買い物、玄関前の草花への水遣り等、日常から外気に触れる機会を設計している。季節の外出(初詣、花見:桜・菊、お祭り見学等)や希望者でのドライブや喫茶外出等、適度な刺激となるプログラムも実施している。	入居者のADLの低下や個々人の想いも違い、個別対応にも工夫と労力が求められることと察します。今後もご家族等の協力も含め、「利用者の思いに沿った外出支援」の継続に期待をしています。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理ができる方には所持をしてもらい、ご本人の買い物の際にご自身で払ってもらっている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、実際に本人自ら電話をしてもらっている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感で快く感じてもらえるよう、共用部分で臭いに注意したり、壁に飾り付けをしたり観葉植物を置いたりして、居心地のよい空間を心がけている。	適度な採光の入るリビング、食事の匂いや音がリビングに漂うキッチン、玄関先の草花やフロアに飾られた生け花や置物、壁面の季節飾り等が四季の移ろいを演出し、ゆったりとした時空間の流れる共用部分となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースの中で、ソファを複数用意する等で、居場所の工夫を行っている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、それまで自宅で使い慣れた家具や身の周り品を持参してもらい使用してもらっている。仏壇や冷蔵庫を置いている方もおられる。	使い慣れた馴染みの大切なもの(家具、冷蔵庫、家族写真、仏壇等)を持ち込み、個々人の居心地の良い居室となるように支援している。洗面台が設置され衛生的で、ADLの変化へも家族と相談しながら対応している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には十分配慮し、且つ入居者がそれぞれの力を発揮できるような環境づくりを考えている。		